

青山剛昌ふるさと館再整備基本構想

令和4年3月

北 栄 町

目次

はじめに.....	4
第1章 基本構想の策定にあたって.....	5
第2章 青山剛昌ふるさと館の現状.....	6
1 設置経緯.....	6
2 利用状況.....	6
3 施設規模と面積検証.....	6
(1)諸室の面積構成比率による検証.....	7
(2)想定収容人数から算出する一人あたりの面積の検証.....	8
4 施設位置.....	9
第3章 青山剛昌ふるさと館の課題.....	10
1 施設設備の課題.....	10
(1)展示空間.....	10
(2)施設設備.....	10
(3)展示資料と収蔵.....	10
(4)館外・屋外施設.....	11
2 運営面の課題.....	11
(1)インバウンド観光客への対応.....	11
(2)運営方法.....	11
(3)周辺施設との連携.....	11
第4章 再整備の基本的な考え方.....	12
1 青山先生の人気と市場について.....	12
(1)マンガ家青山剛昌と名探偵コナン.....	12
(2)日本のマンガ・アニメについて.....	12
2 コンセプト.....	14
コンセプトに込めた思い.....	14
3 これからの青山剛昌ふるさと館の目的・役割・方向性.....	15
(1)観光施設として.....	15
(2)地元で愛される施設として.....	15
(3)文化の伝承・普及施設として.....	15
(4)方向性(目指すもの).....	15

第5章 新青山剛昌ふるさと館に必要な機能と運営	17
1 展示エリア	17
(1)常設展示室	17
(2)企画展示室	17
(3)体験型アトラクション	18
(4)シアタールーム	18
(5)読書ルーム	18
2 収蔵エリア	18
(1)閉架収蔵スペース	18
(2)開架収蔵スペース	19
3 コミュニケーションエリア	19
(1)カフェ・レストラン	19
(2)グッズショップ	19
(3)キッズルーム	19
(4)多目的ルーム	19
4 教育普及エリア	20
(1)教育・広報普及関係(館内)	20
(2)教育・広報普及関係(館外)	20
5 館外設備	20
(1)野外広場	20
(2)駐車場	21
6 共用・管理事務エリア	21
(1)エレベーター・手すり・スロープ・音声ガイド・ピクトグラム等	21
(2)事務室・応接室・会議室・職員用休憩室・救護室・備蓄倉庫等	21
7 運営について	21
(1)インバウンド観光客への対応	21
(2)運営方法	22
8 人材	22
9 地域・住民・近郊施設との連携・協働	22
(1)地域住民の集いの場の提供	22
(2)他施設との総合的連携	23
(3)地域の雇用創出やボランティアスタッフの活動支援	23
10 その他の広報活動	23
11 調査研究	24
(1)収集資料の活用	22
(2)各種データベースの作成	23

12 利用見込み及び経済波及効果	24
第6章 施設モデルと敷地について	25
1 新青山剛昌ふるさと館の施設整備に向けた検討	25
2 新青山剛昌ふるさと館の整備におけるプランの比較	28
3 建設場所の候補地について	30
4 新青山剛昌ふるさと館の施設整備の設計方針	30
第7章 今後の進め方	31
1 基本構想から基本計画へ	31
2 推進体制の充実	31
3 関係者への説明と確認	31
4 事業手法の検討について	32
おわりに	33

はじめに

北栄町では、日本を代表するマンガ家青山剛昌先生が本町出身であることから「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」を謳い、JR 由良駅(愛称:コナン駅)から青山剛昌ふるさと館までの1.4kmのコナン通りを中心にキャラクターの像やモニュメントを配置し修景整備を行うまちづくりを推進してきた。

そして現在、青山剛昌ふるさと館は「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」の拠点施設として、多くのファンや観光客が国内外から訪れている。しかしながら、施設の老朽化、狭隘性やバリアフリー化、貴重な所蔵品の収蔵・保存など様々な問題が山積しており、平成30年2月に地元関係8団体(※)により「青山剛昌ふるさと館の移転新築に関する請願書」が北栄町議会に提出され、平成30年9月町議会において請願が採択となった。

更に課題を整理・調査・研究する為に設置された青山剛昌ふるさと館あり方検討委員会により、令和2年2月「青山剛昌ふるさと館のあり方に関する提言書」が北栄町長に提出された。

この提言書で提議された様々な課題を検証するべく各種調査を実施し、その調査結果に基づき検討された新たな時代に対応した青山剛昌ふるさと館のあるべき姿とそこに至るまでの大凡の道筋を、この再整備計画基本構想として策定した。

新たな青山剛昌ふるさと館は、青山剛昌先生の人となりや作品に掛ける想いを伝え、更にこれからの時代に対応、進化していく施設であることは勿論、日本ひいては世界中の青山剛昌作品のファンが本施設を「聖地」と認識し来訪した際、本施設だけでなく北栄町全体の魅力に触れてもらうことで再びこの町を訪れたいとなる、広い視野でのまちづくりと連動していることが望ましい。

そのため本再整備計画は、単なる一観光施設やマンガ・アニメの文化施設の再整備に終わるものではなく、新たな青山剛昌ふるさと館が北栄町民にとって地元の愛すべき誇りとなり、地域資源として日常的に活用、更には北栄町全体が持続可能かつ魅力的に成長していく際の基幹的な役割を担うことを目指す重要な計画であると位置付けたい。

そして今後は本基本構想に基づき、北栄町が中心となり町民・関係各所と連携・協力し、共につくり育んでいく「青山剛昌ふるさと館を基幹とした北栄町マンガのまちづくりプロジェクト」として、北栄町の豊かな未来像を見据えた協力体制、運営体制を構築していく必要がある。

(※)地元関係8団体…北栄町観光協会、北栄マンガ寺子屋倶楽部、大栄生涯学習まちづくり研究会、由良宿まちづくりの会、遊楽隣工房、北栄町文化団体協議会、NPO 法人まちづくりネット、北栄町商工会

第1章 基本構想の策定にあたって

青山剛昌ふるさと館(以下「ふるさと館」という。)は、「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」の拠点施設として多くのファンや観光客、地域住民が訪れる施設である。

このふるさと館では、マンガ「名探偵コナン」の作者・青山剛昌先生(以下「青山先生」という。)の生まれ育った地である北栄町において、青山先生にスポットをあて、青山作品の世界を解き明かし、青山剛昌ファンをはじめここを訪れる人々に、彼の作品を通し青山先生の魅力や人となりを紹介している。

現在、ふるさと館は、名探偵コナンの聖地として北栄町の人気観光スポットとなっているが、近年の来館者の増加により、施設内における様々な課題が持ち上がっている。

このふるさと館の現状を受け、平成30年2月に地元関係8団体より「青山剛昌ふるさと館の移転新築に関する請願書」が北栄町議会に提出された。町議会で審査を行った結果、平成30年9月定例会において請願が採択となった。

北栄町は、ふるさと館をまちづくりの重要な施設と捉え、課題を整理し、調査・研究を進め、必要な措置を講じるべきであると考え、今後のふるさと館のあり方を検討するため、令和元年に「青山剛昌ふるさと館あり方検討委員会」が設置された。

青山剛昌ふるさと館あり方検討委員会は、来館者・町民を対象にしたアンケートや類似施設の視察を実施し、提言書「青山剛昌ふるさと館のあり方に関する提言書」を令和2年2月18日に提出した。

この基本構想書は、以上の背景をもとに作成された。

第2章 青山剛昌ふるさと館の現状

1 設置経緯

ふるさと館の施設は、もともと歴史文化学習館として平成7年2月1日に開館し、旧大栄町の歴史や農業に関する資料を中心に展示を行っていた。

平成11年頃、同町出身の青山先生の代表作・マンガ「名探偵コナン」を活用した「コナンのまちづくり」が本格化。

同年12月同施設において特別展「青山剛昌展」を開設、さらに平成17年7、8月に大栄町・北条町合併記念日本海新聞発刊30周年記念「名探偵コナン展」を開催し、大きな人気を博した。

その成果を活かし、施設のリニューアルと展示内容の更なる充実を図り、平成19年3月18日にふるさと館がオープンした。

2 利用状況

平成19年の開館以来、毎年6～10万人であった年間来館者数は、平成27年以降「名探偵コナン」の人気に比例して増加し、平成30年に累計来館者数は100万人、令和元年度の総来館者数は約22万人を達成した。また令和元年度の海外からの来館者数は約1万9,000人であり、国内のみならず海外からも多くの方が訪れている。

3 施設規模と面積検証

ふるさと館の敷地概要と建物概要は下記の通りである。

■敷地概要

所在地	鳥取県東伯郡北栄町由良宿東外ヶ浜 1414		
敷地面積	5,141 m ² (大栄町体験学習施設新築工事 竣工図より)		
都市計画区域外	用途地域無し		
建ぺい率	70%	容積率	400%
道路斜線勾配	1.5	隣地斜線	31m+2.5 勾配
その他	北側斜線無し 日影規制無し		

接道道路	東側 県道由良停車場線 道路幅員 16m
関連法規	建築基準法/土壌対策汚染法/鳥取県景観条例/鳥取県屋外広告物条例/文化財保護法等

■既存建物概要

平成6年 竣工図有 構造計算書不明 / 平成18年 改修竣工図有			
1階床面積	750.55 m ²		
2階床面積	140.72 m ²		
延べ床面積	891.27 m ² (容積率 17.33%)		
建築面積	767.27 m ² (建ぺい率 14.92%)		
杭支持	L=6.0m	建物高さ/軒高	不明

(1)諸室の面積構成比率による検証

ふるさと館の諸室を公開スペース、共用スペース、非公開スペースの3つに分けたときの面積構成比率を検証した。ふるさと館の公開スペースは 76.23%と、公開スペースの基準となる比率約 40%を大きく上回り、非公開スペースを圧迫している。非公開スペースの比率は7.44%で、施設規模や青山先生の作品数に鑑みても収蔵スペースの確保ができていないことを示しており、収蔵・保存がしっかりとできない状況であることが明らかになった。また、類似施設調査の結果、類似施設の多くで非公開スペースが基準となる比率より不足していたが、その類似施設の平均比率と比較してもふるさと館の非公開スペース不足は顕著である。

●現状建物の主な諸室面積構成	m ²	坪	面積比率	基準比率(注1)
*①公開スペース				
1F:展示室1+展示室 2	257.86	78.00	28.93%	
1F:新展示室 1(旧保管庫)	120.57	36.47	13.53%	
1F:体験実習室/ミュージアムショップ	163.16	49.36	18.31%	
2F:新展示室 2(旧保管庫)	63.13	19.10	7.08%	
2F:展示室 3	74.70	22.60	8.38%	
①合計;	679.42	205.52	76.23%	約 40%
*②共用スペース				
1F:風除室	12.00	3.63	1.35%	
1F:ホール/廊下その他	99.56	30.12	11.17%	
1F:男子便所	12.96	3.92	1.45%	
1F:女子便所	14.70	4.45	1.65%	
1F:身障者用便所	6.28	1.90	0.70%	
②合計;	145.50	44.01	16.33%	約 20%
*③非公開スペース				
1F:管理室	35.55	10.75	3.99%	
1F:荷捌室	18.46	5.58	2.07%	
1F:燻蒸室(注2)	12.34	3.73	1.38%	
③合計;	66.35	20.07	7.44%	約 40%
総計;	891.27	269.61	100.00%	

(注1)「公立博物館の設置及び運営に関する基準 別記 五 第 5 条関係(1)」(昭和 48 年 11 月 30 日 文部省告示第 164 号)(平成 15 年 6 月廃止)を参考。本基準は平成 15 年 6 月に廃止されているが、本計画のベースとする為の客観的な目安の基準値として参考した。

(注2)現在は燻蒸室としての機能は無く、収蔵庫として活用。その他、建物外にもグッズ関連の収蔵用倉庫(66.08 m²)を設置している。

*参考:「公立博物館の設置及び運営に関する基準」(昭和 48 年 11 月 30 日 文部省告示第 164 号)(平成 15 年 6 月廃止)

*詳細については、別紙【資料編 資料1「基本構想策定における現地調査結果報告資料」、資料 3「青山剛昌ふるさと館 類似施設調査資料」】参照。

(2)想定収容人数から算出する一人あたりの面積の検証

ふるさと館の公開スペースにおける一人あたりの面積を算出したところ、一人当たり 0.87 m²であった。一人当たりの目安となる面積 1.5~2 m²を昨今の感染症対策を鑑みて「2~3 m²」として比較すると、適切な面積を確保できておらず、このままこの施設を使用し続けることは極めて厳しいということがわかった。

試算)現状の「①公開スペース」における必要面積

1:来館者が使用するスペース…475.59 m²

算出方法)679.42 m²(既存公開スペース面積)－203.83 m²(公開スペース面積の約30%分を展示物と想定)=475.59 m²と仮定(来館者の収容可能面積)

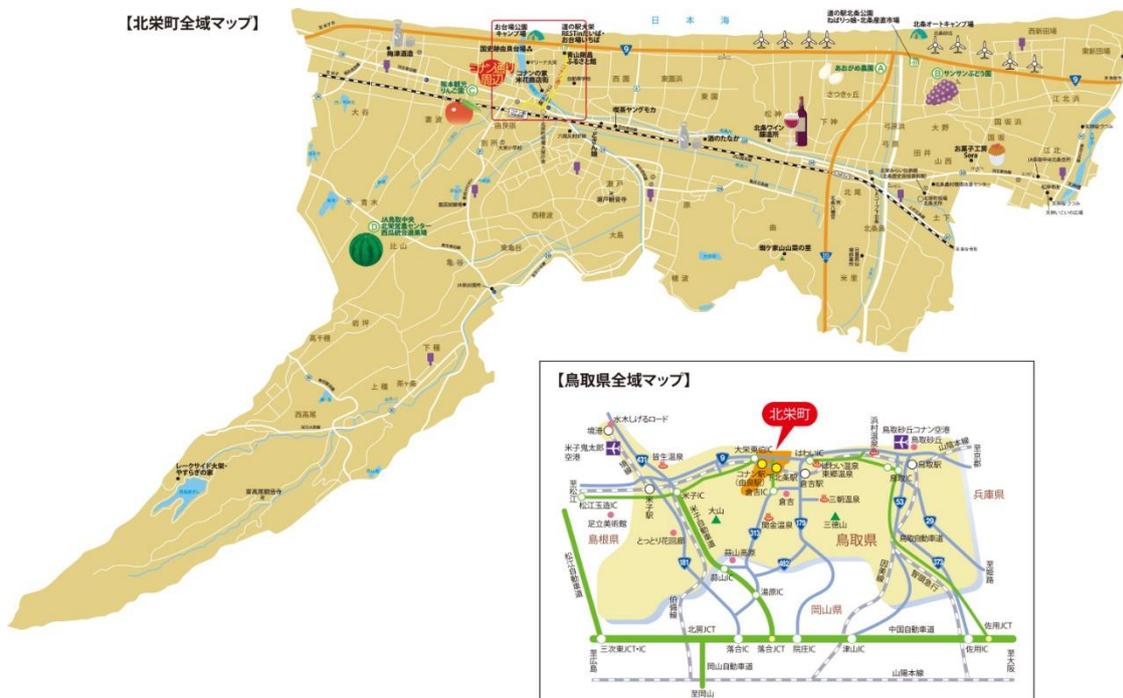
2:過去最大来館者数から算出する1時間単位での一人あたりの面積…0.87 m²

算出方法)過去最大来館者数: 4,376 人/日→547 人/時(令和元年5月3日)
※時間は1日の営業時間(9:30～17:30)の8時間と仮定。
475.59 m²(来館者が使用するスペース)÷547 人/時=0.87 m²/人

*詳細については、別紙【資料 2「基本構想策定に係る調査と検討」】参照。

4 施設位置

ふるさと館は、コナン駅(JR 由良駅)から続く「コナン通り」の終着点にある。「コナン通り」は、「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」のメイン通りで、コナンにまつわるブロンズ像や石製モニュメントがあちこちに点在していて、ファンや地域住民を楽しませている。



第3章 青山剛昌ふるさと館の課題

前述した来館者の増加により、施設内における様々な課題が持ち上がっている。

来館者数の多いゴールデンウィークや夏休み期間中等は、展示スペース全体が来館者で溢れており、ゆっくり作品を鑑賞できる状態ではない。現状の来館者数に対して、明らかに展示スペースが不足している。

また、施設の狭隘性だけでなくバリアフリー化、貴重な所蔵品の収蔵・保存、インバウンド（訪日外国人旅行者）対応等、施設設備と運営の面で様々な課題が山積している。

1 施設設備の課題

(1) 展示空間

ふるさと館では、常設展に加え、定期的に企画展やイベントを実施している。施設の課題である狭隘性については前述したことに加え、企画展やイベントが開催できるスペースも不足しており、ものづくり等のワークショップも常設展示スペースで行っている状況である。

(2) 施設設備

来館者のアンケートにより、50%以上の方々が家族とともに来館していることがわかっている。それに関わらず、ファミリー層、子どもや高齢者、障がい者にやさしい施設設備が不足していることは大きな課題である。現状は、施設の構造上、エレベーターの設置が不可能であり、車椅子の方や歩行が不自由な方が気軽に利用できる施設となっていない。また、安心して利用できる子ども用トイレやおむつ交換スペース、授乳室が設置された専用のスペースがなく、子ども連れでの利用に対しても課題が多い。

(3) 展示資料と収蔵

昨今では、原画をはじめとするマンガの関連資料を収集・保存・活用する取り組みが全国的に進んでいる。ふるさと館でも、青山先生の作品や資料の収集・保存にしっかりと取り組む必要があるが、収蔵方法や施設環境・設備のあり方等の課題が多い。現状の施設では、非公開スペースに所蔵品の保存スペースが不足している。また、温湿度や照度の管理が出来るような設備がないため、作品にとって適切な状態での収蔵・保存は出来ていない。

(4)館外・屋外施設

観光施設や地域に根ざす施設として、入館料を支払い利用する施設のほかに屋外施設等の無料で利用できる場を提供することは重要と考えられている。現在のふるさと館にはそのような運営ができるスペースや地域住民の交流の場として活用できるスペースが不足している。

2 運営面の課題

(1)インバウンド観光客への対応

施設内の案内表示や展示物の説明書き等、多言語で表記しているが充分とは言えない。

(2)運営方法

マンガや芸術分野関連の学芸員(キュレーターやアーキビスト)、キャラクターのグリーティングスタッフ、その他施設運営における専門知識／スキルを持ったスタッフが不足している。また、入場料や土産品販売額など観光客の増減に伴う収入の増減が、運営基盤に影響を及ぼしているのが現状である。

(3)周辺施設との連携

現在、地元団体、県内自治体、県内観光・文化施設など様々な団体や施設と連携をし、様々な取り組みを実施しているが、周遊ルートについて更なる充実が求められる。

第4章 再整備の基本的な考え方

1 青山先生の人気と市場について

(1) マンガ家青山剛昌と名探偵コナン

青山先生は、鳥取県東伯郡大栄町(現北栄町)に生まれた。昭和61年に『ちよっとまって』で第19回小学館新人コミック大賞に入選し、同作品でデビューした。

デビュー後は、小学館「週刊少年サンデー」で「まじっく快斗」「YAIBA」「4番サード」「名探偵コナン」等を連載している。「YAIBA」と「名探偵コナン」では小学館漫画賞を受賞した。

青山先生の作品は、SF、ファンタジー、スポーツ、ミステリーとジャンルは広く、一途で善なる主人公のラブコメ、コメディ要素も含まれ、幅広い世代に人気を博している。

代表作は、国内外で爆発的ヒットを飛ばしている推理マンガ「名探偵コナン」である。物語は、高校生探偵・工藤新一が謎の黒ずくめの組織(コナン作品に登場する架空の犯罪組織)によって少年化されてしまい、正体を隠すために江戸川コナンとして組織の行方を追いながら数々の難解な事件を解決していくものである。

「名探偵コナン」は、推理マンガブームであった平成6年に「週刊少年サンデー」で連載を開始した。平成29年に1,000話目を迎え、「週刊少年サンデー」史上最長の連載期間となっている。マンガ単行本は、令和3年時点で全世界累計発行部数が2億5,000万部を突破しており、同年10月には100巻が刊行された。また、アニメは平成8年からテレビ放送が開始され、翌年からは劇場版映画が公開された。令和3年に公開された劇場版「名探偵コナン 緋色の弾丸」の興行収入は76億円を突破している。なお、アニメは令和3年12月時点で、全世界200以上の国や地域で放送/配信されている。

また、ゲームや関連書籍、グッズ販売、実写ドラマ化等幅広く展開しており、メディアミックスの成功例とも言える。

このように日本のマンガ・アニメ界を牽引する「名探偵コナン」の魅力は、1話完結の謎解きと全体に流れる黒ずくめの組織等による大きな謎を抱えるストーリー構成、登場人物の関係性や個々の魅力、登場アイテムの面白さ、シニカルさとコミカルな表現、米花町を中心とする世界観等多岐に渡る。全世界のコナンファンたちは、様々なメディアで作品を細部まで楽しんでいる。

(2) 日本のマンガ・アニメについて

「マンガ」とは、日本のマンガを指す。「アニメ」とは、日本のアニメを指す。今や日本国内にとどまらず世界各国で、アニメ放送・映画上映・単行本販売等が行われ、多くのファンを魅

了し、「マンガ」「アニメ」という単語は世界共通語になっている。そんな世界中の人々を魅了するマンガ・アニメは、物語性と繊細な作図等製作者たちのたゆまぬ努力の成果であり、日本を代表する産業である。

その特長は、以下のとおりである。

- マンガとアニメの両者は、連載マンガのアニメ化、またはテレビアニメのマンガ化等深い関係で結ばれていて、マンガ制作業界とアニメ制作業界がビジネスパートナーとなっている。
- 当初は子ども向けであったマンガ・アニメのファン層は、大人にまで広がっていて、細分化されたターゲット設定の作品やメディアが登場している。
- 出版・テレビ・映画等のメディアミックスに加え、キャラクター商品等によるライセンスビジネス、海外展開等の多様な収益を生むビジネスになっている。
- 大規模な同人誌即売会やコスプレ、コレクション等ファンが独自につくりあげた文化があり、様々な消費文化を形成している。

このように大きな産業となったマンガ・アニメは、日本ブランドとして観光にも寄与している。マンガ・アニメがきっかけとなり日本語や日本文化に興味を持ち、訪日する外国人は多い。また、日本国内を含めた世界中のマンガ・アニメのファンたちは、好きなマンガ・アニメに縁のある土地を「聖地」と呼び、実際に訪れる。これを「聖地巡礼」と呼び、コンテンツツーリズムの一種として地域の観光施策の一環となっている。

青山先生の出身地 北栄町にあるふるさと館も聖地として知られ、一般社団法人アニメツーリズム協会の「訪れてみたい日本のアニメ聖地88(2018年版)」にも選定され、以降、毎年選ばれている。

2 コンセプト

◎「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」のシンボルとして、地域住民はもちろんのこと、北栄町を訪れるファンや観光客にも愛される持続可能な施設を目指すとともに、マンガ・アニメ文化の発展と情報発信を担う場を創造する。

コンセプトに込めた思い

「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」の魅力の1つは、名探偵コナンキャラクターを使った常設展示である。名探偵コナンに関する展示は全国にもたくさんあるが、常に屋内外にオブジェ等が展示されている町は北栄町だけである。

この世界で唯一の「名探偵コナンに会えるまち」という強みを生かし、ふるさと館を訪れた方に、ここでしか出来ない体験を提供する。

青山先生の代表作「名探偵コナン」をはじめとする、青山作品の中に入り込めるような展示や体験型アトラクション、充実した館内外の設備など、子どもから大人まで、どなたでも、何度でも楽しめる施設とする。

また、作品のみではなく、マンガ家として成功を収めている青山先生自身にスポットを当て、青山先生の生い立ちから現在までのマンガ家としての生き方を紹介し、これからの未来を担う子どもたちをはじめ、ふるさと館を訪れた全ての方が、感性を育み、夢と希望を持つことのできる施設とする。

そのためには、ふるさと館にある原画や、雑誌／コミックス等、青山先生の貴重な作品を今後も未永く残していくために、作品にとって最適な状態で収蔵・保存・展示が出来るよう、専門的なスキルと知識を有した人材の確保をするとともに、十分な設備を有した作業スペースや収蔵の為にスペースを整備する。

3 これからの青山剛昌ふるさと館の目的・役割・方向性

(1)観光施設として

- 目的・・・「名探偵コナンに会えるまち北栄町」のシンボルとし、北栄町の観光施策の中心となる施設とする。また、世界で唯一の「名探偵コナンに会えるまち」という強みを生かし、ここでしか出来ない体験を提供する施設とする。
- 役割・・・全国、全世界からのファンや観光客を集めるなど、町の観光産業を活性化させる高い集客力を持つべきである。そのためにも、世界的人気を誇る名探偵コナンの世界観を様々な形で体験できるアトラクションや展示品を有した唯一の施設として、何度も来たくするような新しい魅力を随時生み出していく。

(2)地元に愛される施設として

- 目的・・・北栄町を訪れるファンや観光客だけでなく、地域住民にも愛される地元の誇りとなるよう、地域イベントの実施や有事の際の対応など、地域住民に寄り添う施設とする。
- 役割・・・地域住民の場として、日常に寄り添う充実した機能を持つべきである。例えば、地域の祭りなどのイベントやマーケット、飲食など日常生活の中に取り入れられる施設となる必要があり、同時に、防災拠点など町内で必要な機能を担う。

(3)文化の伝承・普及施設として

- 目的・・・青山先生の作品や関連資料を収集・保存・活用し、伝承する施設とする。また、日本のマンガ・アニメ業界を代表する青山先生と青山作品を通して、北栄町で生まれ育った青山先生の歴史や人となり、作品の世界観に触れることで、訪れた方が感性を育み、夢と希望を持つことができる施設とする。
- 役割・・・北栄町は青山先生の出身地であるため、青山先生の世界観を表現できる場として、青山先生の作品や関連資料等を最良の環境で保存・管理し、多くの方々に伝承していくことが重要である。そのためにも、専門技術の習得や人材の確保はもちろん、原画アーカイブの拠点となるべき施設として全国の関連施設等と連携し、マンガ・アニメという日本文化の教育普及活動を推進する。

(4)方向性(目指すもの)

この施設は、「名探偵コナン」をはじめとする青山先生の作品群と青山先生の生い立ちから現在までのマンガ家としての生き方を通し、子どもから大人まで全ての方が、感性を

育み、夢と希望を持つことのできる施設であるべきである。また、ファンや観光客だけでなく、地域住民にも愛され続ける場として北栄町のシンボルとなる施設とする。

そのためには、ふるさと館が現状抱えている課題の解決だけでなく、施設機能や企画、運営等多岐にわたる見直しが必要であり、全ての方が等しく、そして楽しく安全に快適に過ごすことができる施設に変更していく必要がある。

また、本計画の施設のみならず、コナン通りを含めた近隣エリアの活性化・遊休施設の利活用促進などを促していく観光産業の中心的な役割と目的を持った事業の推進を検討する。この計画は、地元の協力・連携があってこそその政策であるため、地域の方の意見を取り入れながら、ともに良き方向性を見出していく。

さらに前述の通り、既存施設を上回る来館者を受け入れ、様々な機能が追加されることでスタッフの増員やサービスの向上も視野に入れて検討していかなければならない。スタッフの増員は、町内の雇用の創出に繋げていく。

昨今、観光産業に於いては特に感染症の影響を受けているが、「with コロナ」「after コロナ」についても検討していく必要がある。前述した一人あたりの面積の確保だけでなく、非接触型などを含む展示施設の研究や開発、観光客の価値観に寄り添う施設になる必要がある。

また、SNS などを使った情報発信についてもふるさと館が先導を切って取り組むべきと考える。情報公開の重要性を検討し、しかるべき対策を取っていくべきである。

以上のことから、「新青山剛昌ふるさと館」は、「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」のシンボルとなる施設として、今後も活躍が期待される青山先生の想いや作品を伝承していかなければならない。そのためには、巡回展等により日本国内だけでなく世界中で認知してもらう仕組みを構築することで、マンガ・アニメ文化を通して観光産業と地元発展に寄与し、地域社会に貢献する施設を目指すべきである。

第5章 新青山剛昌ふるさと館に必要な機能と運営

1 展示エリア

(1)常設展示室

青山先生の生い立ちから現在までのマンガ家としての生き方や仕事風景の紹介、原画の展示、青山作品の中に入り込めるような体験型アトラクション等、これまで青山先生が創り上げてきた独自の世界観に触れられる内容とする。

特に、少年時代の作品や当時読んでいた本等、青山先生のルーツに関する展示は重点的に整備する。青山先生がなぜマンガ家の道を選んだのかを解説し、訪れた方が青山先生をより身近に感じ、感性を育み、夢と希望を持つことのできるものとする。

また、貴重な原画等を展示するため、温湿度管理機能のついた展示ケースの導入の他、展示エリアに最適な空調設備や照明設備を導入し、展示エリア内の環境を充実させる。

定期的な展示入れ替えを想定し、作品の入れ替えが容易となる設備、例えば可動式展示壁等を設置することが望ましい。

タブレット端末やスマートフォンを利用した他言語による解説、音声ガイダンスや解説員によるギャラリートークツアー等、最新の展示や解説の導入も検討していく。

屋外にも作品や世界観に触れることのできる空間を創出するため、野外にもキャラクター像の設置や参加型の作品を配置、何処でも館の主題を感じる親しみやすくワクワク感のある空間を演出する。

(2)企画展示室

青山作品に関連する企画展示等に活用できる企画展示室を整備する。企画内容によって展示物の配置や来館者の動線を変えることが出来るように、可動式展示壁を設置することが望ましい。常設展示室と同様に、展示室内の温湿度や照度管理は徹底しなければならない。又、国内外のマンガ・アニメ関連施設との連携及びコラボレーション展示により、マンガ文化の魅力や世界観を広げる事も想定できる。

ア 名探偵コナンに関する展示会の充実

名探偵コナンに触れ合うことができる展示を定期的に開催する。例えば、映画の公開に合わせたものや「推理」「科学鑑定」をテーマにしたもの等が想定できる。

イ マンガ・アニメの文化に関する展示会の充実

日本のマンガ・アニメに触れ合うことができる展示を開催する。例えば、青山先生ゆかりのマンガ家の展示や青山先生ゆかりの刊行物の展示、「まんが王国とっとり」を題材にした展示等が想定できる。

ウ マンガの技術や技法をテーマにした展示会の充実

マンガの作り方に触れ合うことができる展示を開催する。マンガのコマ割りや吹き出しの形、擬音効果音の種類や描き方、効果線の形や技法、海、波、空、雲などの背景の種類や表現技法等(ワークショップと連動)が想定できる。

(3)体験型アトラクション

青山作品の世界観を体験できるエリアを整備する。その空間は期間限定のアトラクションアイテムを設置するほか、定期的にアトラクションアイテムの入れ替えや増設を出来るようにし、絶えず進化させていく。

(4)シアタールーム

シアタールームを整備し、青山作品の映像コンテンツを上映する。多くの来館者が見込まれ、館内が混雑する繁忙期には、シアタールームを映画館のように定員入替制にする等、より多くの来館者に楽しんでいただけるよう工夫する。

(5)読書ルーム

来館者が青山作品のコミックスや関連書籍、青山先生が影響を受けた作品等を読むことが出来るスペースを整備する。空調や照度等読書に適した環境を創り上げ、リラックスできる空間とする。また、座り心地の良い椅子や誰もが本を出し入れしやすい本棚、タブレットやPC等の備品の設置も検討する。

2 収蔵エリア

(1)閉架収蔵スペース

貴重な原画及びネーム等の関連資料にとって適切な温湿度等の空調管理の設備を備えた、搬入出入口・トラックヤード・一時保管庫・収蔵前室・収蔵庫等を設け、将来、長期間にわたって収蔵が可能な広さを持つ収蔵前室や収蔵庫等、必要な設備を揃えた作品収蔵エリアを整備。また、作品の一時保管庫やコミックスや雑誌の保管庫等、その他のバックヤードに関しても十分な広さと設備を確保し、利便性にも留意する。

(2)開架収蔵スペース

所蔵作品のリスト化・データベース化・デジタルデータ化等の一連のアーカイブ作業を、ガラス越しに来館者が自由に見学できるよう「見える化」に力点を置いた特設のスペースを設ける。

3 コミュニケーションエリア

(1)カフェ・レストラン

公開のエリアとして、来館者や周辺地域の人たち及び全ての人たちも気軽に休憩や食事などができるスペースとして、カフェ・レストランを整備し、来館者がより一層楽しめ、快適に過ごすことのできる施設を目指す。

食を通して青山先生の世界観に触れられるように、青山作品に関連したメニューの開発や北栄町産の地元食材を使用する等、地産地消にも配慮する。

(2)グッズショップ

青山作品に関するグッズやお菓子、青山先生に関連した地元の特産品を生産・販売するグッズショップを整備する。

(3)キッズルーム

ふるさと館は、子ども連れでの利用も多いことから、新たにキッズスペースを整備し、子ども向け機能の強化をする。キッズスペース内にはおむつ交換台、授乳室、ミルク用のお湯、手洗い用の水道等を整備する。キッズスペースは防音とし、子どもが泣いている状態でも他の来館者に対して、気兼ねなく利用できるよう工夫する。

(4)多目的ルーム

子どものクールダウンやレクリエーションなど様々な用途に使用できる多目的ルームを整備する。

4 教育普及エリア

(1)教育・広報普及関係(館内)

ア マンガに関する学習講座や体験教室(ワークショップ)等の充実

マンガ家を招いてのマンガの描き方講座、マンガ研究者を招いての日本のマンガの歩みや技法の発展、マンガのアニメ・映画・ドラマへの影響力や関係に関するレクチャー等の開催が想定される。これらを通して、マンガコンテンツの重要性や文化財的価値の理解を深める。

イ 子どもたちのための取組

親子で参加できるプログラムを用意し、家族みんなで楽しめる機会を提供する。「親子で楽しむ推理、謎解き大会」「科学鑑定体験会」等の開催が想定される。

(2)教育・広報普及関係(館外)

ア 移動ふるさと館の拡充

- 国内外で開催される「名探偵コナンイベント」の会場にふるさと館の紹介スペースを出展する。貸出用複製原画・キャラクターオブジェやデジタル資料の展示、関係グッズの販売等が想定される。
- 県下各地の学校や公民館等を会場とする、青山先生や青山作品、日本のマンガ・アニメ文化に関するレクチャー等にも柔軟に対応する。各学校の児童・生徒や遠くまで出かけ難い高齢者、障害者等を含む地域の方を対象に、より身近な場所でふるさと館に触れ合えるようにしていく。
- ホームページや「VR(※)ふるさと館」の立上げ等デジタルコンテンツにも注力する。

(※)Virtual Reality(仮想現実)…コンピューター上にCG等で人工的な環境を作り出し、あたかもそこにいるかのような感覚を体験できる技術のこと。

5 館外設備

(1)野外広場

ふるさと館敷地内の屋外スペースに広場を整備し、来館者や地域住民の憩いの場を提供する。ゴールデンウィークや夏休み期間中等多くの来館者が見込まれる時期は、イベントで活用し、賑わいを創出する。また、災害時の避難場所として活用可能な計画を検討する。

地域住民には四季を感じ、日常的で気軽に使える設備や施設を持つ心地よい庭(スペース)でありながら、来場者にとっても劇中のシーンなどをイメージ演出された公共空間のデザイ

ンと、災害時や緊急時などにも備えた公園機能も考慮した、屋外広場を検討する。

ア お散歩コース、スケートボードコース、やさしい芝生などの普段使い機能や設備。

イ コナンの名シーンで登場するいちよう並木や桜並木、噴水などの再現演出など。

ウ イベント時や必要な電気や照明、上下水道設備やテントなどが張れる広場空間。

(2) 駐車場

小型車・大型車ともに十分な駐車台数を確保した駐車場を整備する。建物入口付近には障がい者用駐車スペースを設け、障がいのある方や高齢者へ配慮する。大型バスで訪れる団体客も多いことから、大型バス専用の駐車スペースを設ける。

6 共用・管理事務エリア

(1) エレベーター・手すり・スロープ・音声ガイド・ピクトグラム等

エレベーターや手すり、スロープ設置のほか、床面は段差のない構造にする。また、ハード面だけでなく、点字や音声ガイド等ソフト面においても、バリアフリーに対応できる施設とする。同時に、ピクトグラム等のユニバーサルデザインを積極的に取り込むことで、全ての来館者が安心・安全に利用できる施設づくりに取り組む。

(2) 事務室・応接室・会議室・職員用休憩室・救護室・備蓄倉庫等

ふるさと館の運営や維持管理に必要な機能を整備する。来館者の体調不良や怪我に対応できる救護室や、災害等を想定した備蓄倉庫を設置する。また、十分な広さの事務室や職員用休憩室等を整備し、ふるさと館で働く職員にとっても快適な環境づくりに取り組む。

7 運営について

(1) インバウンド観光客への対応

施設内の案内表示や展示物の説明書きなどの多言語表記の充実を図ることで、外国人客に対して最低限のサービスを提供する。さらには、専門チームを設け、多言語対応が可能なスタッフによる解説や接客も強化し、外国人客がスタッフと直接会話・質問する機会をつくっていくことも必要である。世界的に人気のある青山先生のふるさと館として相応しいおもてなしの接点を増やしていく。

また、海外向けSNSやオンラインツアー・セミナーを開催するなど、訪日前の集客と情報発信を積極的に実施していくことは必須である。

(2)運営方法

従来型の博物館・美術館としての運営手法に加え、キャラクター施設やエンターテインメント施設の運営手法も取り入れていくべきであり、施設と作品を維持管理し、定期的なリニューアル等も実施することで魅力を維持継続できる、持続可能な施設運営と人材育成が必要である。

健全な収益を確保し施設を運営するためには営業黒字化を十分に考慮した施設計画・運営計画が求められる。また、顧客満足を維持することのできる滞在時間と客単価の設定をし、それに見合う展示計画や営業計画を立案する必要がある。

さらに、観光施設に限らず文化施設の最大の課題は来場者数の繁閑差にあるため、日祝日、連休、年末年始、春休み、GW、夏休み以外のオフシーズンの営業・運営計画も重要となる。

8 人材

当構想計画は、既存施設を上回る来場者数を受け入れられる施設となるため、新たなスタッフ増員や良質なサービスの提供を充実させることを視野に入れた施設づくりを目指す。

持続可能な施設づくりを目指すにあたり、全国各地の類似施設では「人(ヒューマンウェア)」が成功している要因の一つと考えられる。本計画でも、将来の新施設開館へ向けた人材の育成を進めていく必要がある。

施設やエリアの充実により、学芸員(キュレーターやアーキビスト)、キャラクターのグリーティングスタッフなど専門技術を要する業務に携わる人材が必要である。また、施設規模の拡張に伴い、ふるさと館に携わる総スタッフ数も増え、更なる雇用創出の機会が生まれるため、その準備も進めていく必要がある。

9 地域・住民・近郊施設との連携・協働

(1)地域住民の集いの場の提供

ふるさと館と地域住民、または地域住民同士の交流の場として活用する。

《活動例》

ふるさと館、館外の団体が主体となり行うものも含め、多様なイベントを展開する。

- ふるさと館町民無料デー等の地域住民向けイベント
- 地域のお祭り等地域に根付いたイベント

- 農産物の販売等の日常生活のひとつとなるイベント
- 様々な教育機関が実施するイベント

(2)他施設との総合的連携

ア マンガ・アニメの関係文化施設や県内の観光文化施設との連携

マンガ・アニメの関係文化施設や県内の観光文化施設との間に協力・連携のネットワークを構築し、作品・資料の保管や展示方法に関する研究・開発を促進する。各施設と共同して展示会・イベントの開発・開催を促進し、広報宣伝・利用促進を行い、関係施設の周遊行動に貢献する。県内の成功事例である「水木しげるロード」とは周遊ルートの確立やイベントの連携、人材交流など様々な取り組みが期待される。また、現在建設が進められている鳥取県立美術館の基本構想においても、ふるさと館との様々な連携が期待されており、そうした関連施設との結びつきも求められている。

イ 町内の施設や店舗との連携

ふるさと館と町内の施設や店舗などが様々な連携を図り、北栄町内でのイベントの実施や周遊行動に貢献する。

ウ 交通機関・サービスエリア・パーキングエリアとの連携

県内の主要交通機関である鳥取砂丘コナン空港・JR・路線バスとの周遊や、自家用車で来られる旅行者等を意識したサービスエリア・パーキングエリアとの連携を強化する。

(3)地域の雇用創出やボランティアスタッフの活動支援

高齢者雇用を含め、地域の人材の採用に注力していく。また、ボランティアスタッフの活動は、子どもの職業体験やガイドの養成等様々な取り組みを想定している。

10 その他の広報活動

マンガ文化の拠点として、SNS や YouTube 等の様々なコンテンツを活用しながら、鳥取県、日本国内、さらには世界へ発信していく。

館外活動を行うには、マンガ・アニメの教育機関、出版、プロモーション業界との連携が重要になる。そのためにも、ふるさと館を青山剛昌、名探偵コナンの「聖地」として確立していくことが必要である。

11 調査研究

(1) 収集資料の活用

収集した資料の調査研究整理を行い、必要であれば他施設との情報交換を行う。

(2) 各種データベースの作成

収集した作品・資料のデータベースを構築し展示・企画運営に展開する。

12 利用見込み及び経済波及効果

新たな魅力ある施設を計画し、本計画の施設のみならず、コナン通りを含めた近隣エリアの活性化・遊休施設の利活用などを促していく中心的な役割と目的を持った事業の推進を検討する。

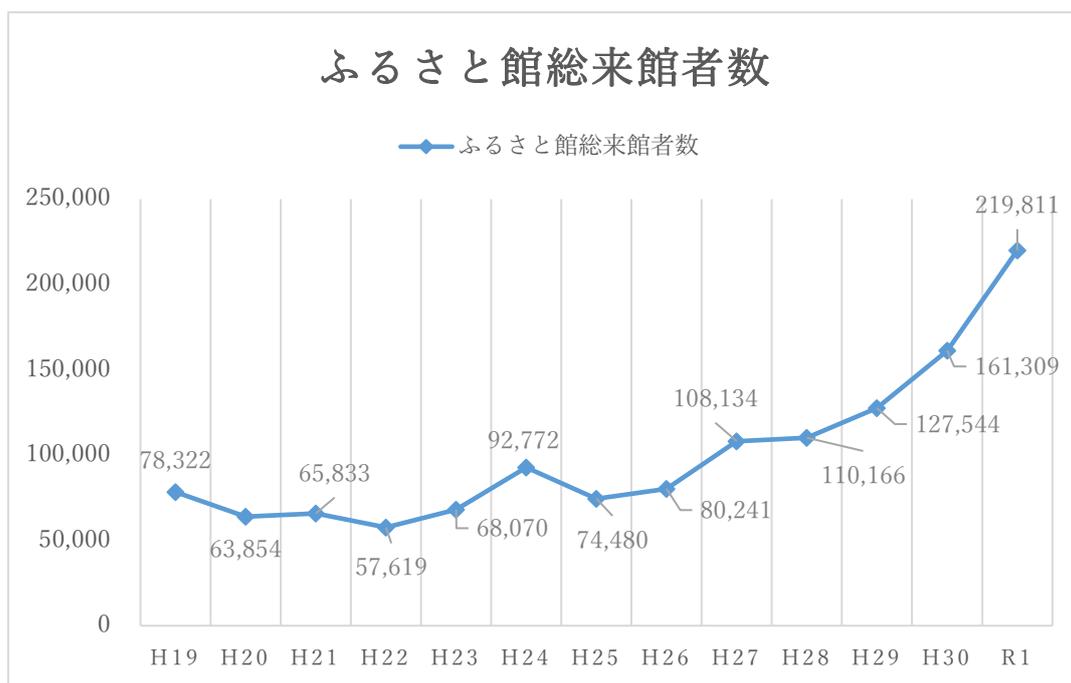
令和元年度の収入は、ふるさと館の入場料収入で≒1億1,300万円とコナン通りにある周辺関連施設の収入で≒4億700万円で合計5億2,000万円に及ぶ。

当計画を推進した場合の予測として、新たな施設内に検討している飲食・物販などや新たに周辺の開発に伴い発展する新規事業内容に鑑みると、更なる経済波及効果も期待できる。

第6章 施設モデルと敷地について

1 新青山剛昌ふるさと館の施設整備に向けた検討

ふるさと館の近年の総来館者は、平成28年は約11万人で、その3年後の令和元年には2倍以上となる22万人を記録している。この3年間は、平成28年～29年に15%UP、平成29年～30年に26%UP、平成30年～令和元年に36%UPしている。



これからのふるさと館が目指すものを実現するために、この3年間の伸び率も考慮し、過去最高の年間来館者数と1日あたりの過去最大来館者数から、来館者が快適に観覧できる適切な面積について、以下検討してみた。

	実績から算出する必要面積
1:年間来館者数実績	令和元年度実績・過去最大 219,811人
2:1日あたりの来館者数	過去最大来館者数(令和元年5月3日) 4,376人/日
◎必要面積 *「公開スペース」をベースに算出	約3,000㎡ (*下記必要面積等についての検討算出値参照)

■「公開スペース」をベースにした必要面積等についての検討

1:年間来館者数実績から算出・・・75人/時【A】

算出方法)219,811人/年÷365日÷8時間=75.2人/時→≒75人/時

75人/時×3㎡/人(パーソナルスペース)=225㎡

225㎡+67.5㎡(約30%分を展示物と想定)≒「公開スペース」延べ面積 **293㎡**

2:1日あたりの過去来館者数実績からの算出・・・547人/時【B】

算出方法)4,376人÷8時間=547人/時

547人/時×3㎡/人(パーソナルスペース)=1,641㎡

1,641㎡+492.3㎡(約30%分を展示物と想定)≒「公開スペース」延べ面積 **2,133㎡**

3:上記、1と2の中間値【(A+B)÷2】・・・311人/時

算出方法)(75人+547人)÷2×3㎡/人(パーソナルスペース)=933㎡

933㎡+279.9㎡(約30%分を展示物と想定)≒「公開スペース」延べ面積 **1,213㎡**

*上記3をベースにした場合の施設全体の面積構成

①公開スペース面積(40%): 1,213.0㎡

②共用スペース面積(20%): 606.5㎡

③非公開スペース面積(40%): 1,213.0㎡

◎延べ面積計: 3,032.5㎡⇒**約3,000㎡程度が必要と考えられる**

*参考:「公立博物館の設置及び運営に関する基準 別記 五 第 5 条関係(1)」(昭和 48 年 11 月 30 日 文部省告示 第 164 号)(平成 15 年 6 月 廃止)本基準は平成 15 年 6 月に廃止されているが、本計画のベースとする為の客観的な目安の基準値として参考した。

*検討事項

- ・「昨今のコロナウイルス感染症拡大に鑑みたスペースの確保」「開館後も増えていく各種収蔵物等の増加分スペースの確保」「インバウンド対応可能なスペースの確保」等
- ・昨今のソーシャルディスタンス等の考え方を踏まえ、上記参考数値より若干広めに設定するのが望ましい。
- ・魅力ある施設づくりを十分に考えた各必要諸室の適正な面積比率設定等に関しては、今後基本計画の段階にてしっかりと考慮する必要がある。

上記の通り試算した延べ面積「3,000 m²」を新施設規模の参考面積とし、新たに必要と思われる各諸室要素を以下にて検討/仮定した。

●新たに必要と思われる諸室要素の検討

黄色は、新たに必要と思われる諸室要素

*①公開スペース	m ²	坪	面積比率
常設展示スペース	100.00	30.25	3.33%
企画展示スペース	100.00	30.25	3.33%
特別展示スペース	90.00	27.23	3.00%
体験型アトラクション	150.00	45.38	5.00%
ミュージアムスペース	90.00	27.23	3.00%
ミニシアター	100.00	30.25	3.33%
ワークショップ	35.00	10.59	1.17%
展示準備室	40.00	12.10	1.33%
読書スペース(開架式)	50.00	15.13	1.67%
多目的ルーム	55.00	16.64	1.83%
会議室/集会室	55.00	16.64	1.83%
資料/研究室/視聴覚室	35.00	10.59	1.17%
カフェ/飲食スペース	170.00	51.43	5.67%
ショップスペース	100.00	30.25	3.33%
食物販スペース	30.00	9.08	1.00%
①合計;	1,200.00	363.00	40.00%
*②共用スペース	m ²	坪	面積比率
風除室	30.00	9.08	1.00%
ホール/廊下/その他	115.00	34.79	3.83%
男子便所	30.00	9.08	1.00%
女子便所	30.00	9.08	1.00%
身障者用便所	10.00	3.03	0.33%
案内/受付	20.00	6.05	0.67%
エレベーター	5.00	1.51	0.17%
エントランスホール	100.00	30.25	3.33%
ロビー/ラウンジ	120.00	36.30	4.00%
救護室	40.00	12.10	1.33%

授乳室	40.00	12.10	1.33%
フリースペース(キッズ含)	60.00	18.15	2.00%
②合計;	600.00	181.50	20.00%
*③非公開スペース	m²	坪	面積比率
管理室	85.00	25.71	2.83%
荷捌室	75.00	22.69	2.50%
燻蒸室	25.00	7.56	0.83%
前室及び倉庫/収納	250.00	75.63	8.33%
収蔵室	150.00	45.38	5.00%
デジタルアーカイブルーム(閉架式)	150.00	45.38	5.00%
検査室	40.00	12.10	1.33%
スタッフルーム(学芸員等)	50.00	15.13	1.67%
応接室	50.00	15.13	1.67%
従業員休憩室/更衣室	50.00	15.13	1.67%
従業員 WC/給湯室等	45.00	13.61	1.50%
廊下/その他	145.00	43.86	4.83%
厨房/食品庫	85.00	25.71	2.83%
③合計;	1,200.00	363.00	40.00%
◎延べ床面積 総計;	3,000.00	907.50	100.00%

2 新青山剛昌ふるさと館の整備におけるプランの比較

前項で仮定した面積比率をもとに、「A 案:既存施設改修案」「B 案:既存施設改修+増築案」「C 案:既存施設の隣接敷地新築案」「D 案:現道の駅への移転新築案」「E 案:出会いの広場移転新築案」の5つのプランで比較検討を実施した。

別紙の資料編にあるように新青山剛昌ふるさと館が目指す方向性に鑑みて比較検討し協議した結果、総合評価は E 案が良い結果となった。出会いの広場は、旧鳥取県運転免許試験場跡地であり町所有の再活用をすべき敷地である。ただし、「コナン通りのあり方」「交通渋滞対策」など課題も残るため、今後、地域の方々と意見交換が必要である。

以上のことをふまえ、「E 案:出会いの広場(旧鳥取県運転免許試験場跡地)移転新築案」を施設整備の計画案として進めていくこととする。

また、E 案で計画を進めていくなかで、ふるさと館へのアクセスルートについても協議を重ねる必要がある。来館者の多くが、主に JR と車を移動手段として利用している。つまり、「歩行ルート」としては、JR 由良駅(愛称:コナン駅)からふるさと館までのコナン通りが、「バス・自家用車ルート」としては、国道 9 号からの山陰自動車道が今後も重要なアクセ

スルートであると考えられる。再整備の際は、2026年に予定されている山陰自動車道大栄 IC の開通によるアクセスルートの変化を考慮した検討は欠かせない要素である。

*比較検討の詳細については、別紙【資料編 資料 2「基本構想策定に係る調査と検討」】参照。

3 建設場所の候補地について

出会いの広場(旧鳥取県運転免許試験場跡地)の概要は以下の通りである。

候補地	鳥取県東伯郡北栄町由良宿東内浜他 計 19 筆		
敷地面積	27,521.54 m ² (入手地籍図により計算)		
都市計画区域外	用途地域無し		
建ぺい率	70%	容積率	400%
道路斜線勾配	1.5		
隣地斜線	31m+2.5 勾配 北側斜線無し 日影規制無し		
接道道路	東側県道 県道由良停車場線 道路幅員 16m 東側町道 2001 自動車運転免許試験場線 道路幅員 6.0m~8.3m 南側 川沿い通路 建築基準法外道路		
関連法規	建築基準法/土壌対策汚染法/鳥取県景観条例/鳥取県屋外広告物条例/文化財保護法等		

*詳細については、別紙【資料編 資料 2「基本構想策定に係る調査と検討」】参照。

4 新青山剛昌ふるさと館の施設整備の設計方針

北栄町のシンボルとして魅力的に発展していくためにも、サステイナブル(持続可能)を意識した新しい価値観を併せ持った施設になるように整備していく必要がある。

維持管理のためのランニングコストを抑えた施設整備はもちろんのこと、再生可能エネルギーを積極的に利用するなど環境に配慮した施設整備など様々な角度から検討した上で設計方針を決定していかねばならない。

*詳細については、別紙【資料編 資料 4「新規施設計画時に導入検討資料」】参照。

第7章 今後の進め方

1 基本構想から基本計画へ

「青山剛昌ふるさと館のあり方に関する提言書」の趣旨をさらに具体化する

ふるさと館は、「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」の拠点施設であり、多くのコナンファンや観光客が訪れている。しかしながら、施設の老朽化や空間の狭さ、バリアフリーの不備、原画等の資料収蔵保存の環境改善等、多くの課題が指摘されてきた。

平成30年に地元関係8団体から「移転新築に関する請願書」が町議会に提出されて採択された。すぐに北栄町としては課題を整理し、令和元年に青山剛昌ふるさと館のあり方検討委員会が設置され、本格的な検討が進められ、令和2年2月に提言書が提出された。

本基本構想はその提言に基づき、より具体的にあり方を検討し策定したもので、今後の計画推進の基礎となる理念や概要をまとめたものである。この構想が実現に向けてのロードマップとなって、今後協議検討が重ねられ、次の基本計画段階において、より詳細な施設計画、事業計画、事業手法、計画推進体制等の整理を行う。

また、今後の整備計画の全体工程を考えると、計画、設計、建設、展示等開館準備が必要と考えられる。新ふるさと館の全体スケジュールにおいても目標を設定し調整していくこととなる。

2 推進体制の充実

広く町民、地域住民の理解と協力が得られる推進体制の充実を図る

ふるさと館の再整備を進めるにあたり、多くのファンや観光客の来訪に対応することはもちろん、地域の人々にとっても親しみを持って受け入れられ利用される施設となることが重要である。

そのためには、計画段階から、町民の参加協働や意見交換の場の設定、マンガを活用したまちづくりへの理解を促す研修等を行うことが必要である。その一方で、有識者を含めたアドバイザー等第三者的立場からの支援体制づくりも不可欠であり、また幅広く情報を公開共有する推進体制も検討すべきである。

3 関係者への説明と確認

青山剛昌先生はじめ関係者への意向確認に基づき計画を進める

ふるさと館は現在、人気の日本ポップサブカルチャー分野の拠点の一つとなっている。名探偵コナンをはじめとした青山先生直筆の多くの原画や関連グッズを求めて、これからも多くの人々が世界各地から訪れることが期待されている。

そのような現状の中、施設として改善が望まれている最重要項目は「展示空間」と「原画等収蔵保存スペース」の刷新と充実である。どちらも青山先生はじめ著作権等を管理する関係者への丁寧な対応が不可欠である。計画を進める上で、その内容説明や意向確認はもちろん、合意のもと全面的な理解と協力を得られるよう努めなければならない。

4 事業手法の検討について

新ふるさと館が目指すものを実現するために、町直営だけでなく民間の活力を使った様々な事業手法を検討していくべきである

今後、事業手法についても比較検討を行い、適切な規模と内容による安定した維持管理が継続できる施設運営が行えるよう整備していく必要がある。

おわりに

ふるさと館の再整備計画や敷地の活用は、北栄町のまちづくりに於いて非常に重要な位置づけであるため、今後も常に様々な視点から協議を重ねていく必要がある。

「青山剛昌ふるさと館のあり方に関する提言書」に記載されていることを前提に、下記の5つのポイントを特に大切に、進行していかなければならない。

- ・青山先生や青山作品とそのキャラクターの魅力を最大限引き出すこと
- ・施設のより良い運営のため、運営の手法を検討すること
- ・より良い施設にするためのレイアウトや建築設備を検討すること
- ・青山先生の作品をしっかりと保管するための収蔵方法を検討すること
- ・地域住民やファンの方々に愛される施設となるべく、情報収集を含め、様々な視点からそのあり方を検討すること

これらのことをしっかりと検討していくために、基本計画の段階から同じ目的を持ち協力し合える団体・組織を結成し協議連携するなど、より良い施設にするための手法を取り入れていくことも必要である。

また、ふるさと館の再整備は、コナン通りを含む北栄町全体を様々な角度から再検証し、町と施設のあり方を再定義していかなければならない。さらには、この再整備されるふるさと館は、北栄町や鳥取県、日本国内にとどまらず、全世界への波及も考慮し進めるべきプロジェクトであると思われるため、国際的な視点を取り入れながら、広い視野を持って協議を重ねることも重要である。

以上のことから今後北栄町が中心となり、様々なジャンルの有識者のもと、基本計画段階においてより詳細な施設計画、事業計画、事業手法、計画推進体制等を検討していき、「青山剛昌ふるさと館を基幹とした北栄町マンガのまちづくりプロジェクト」を進行していく。